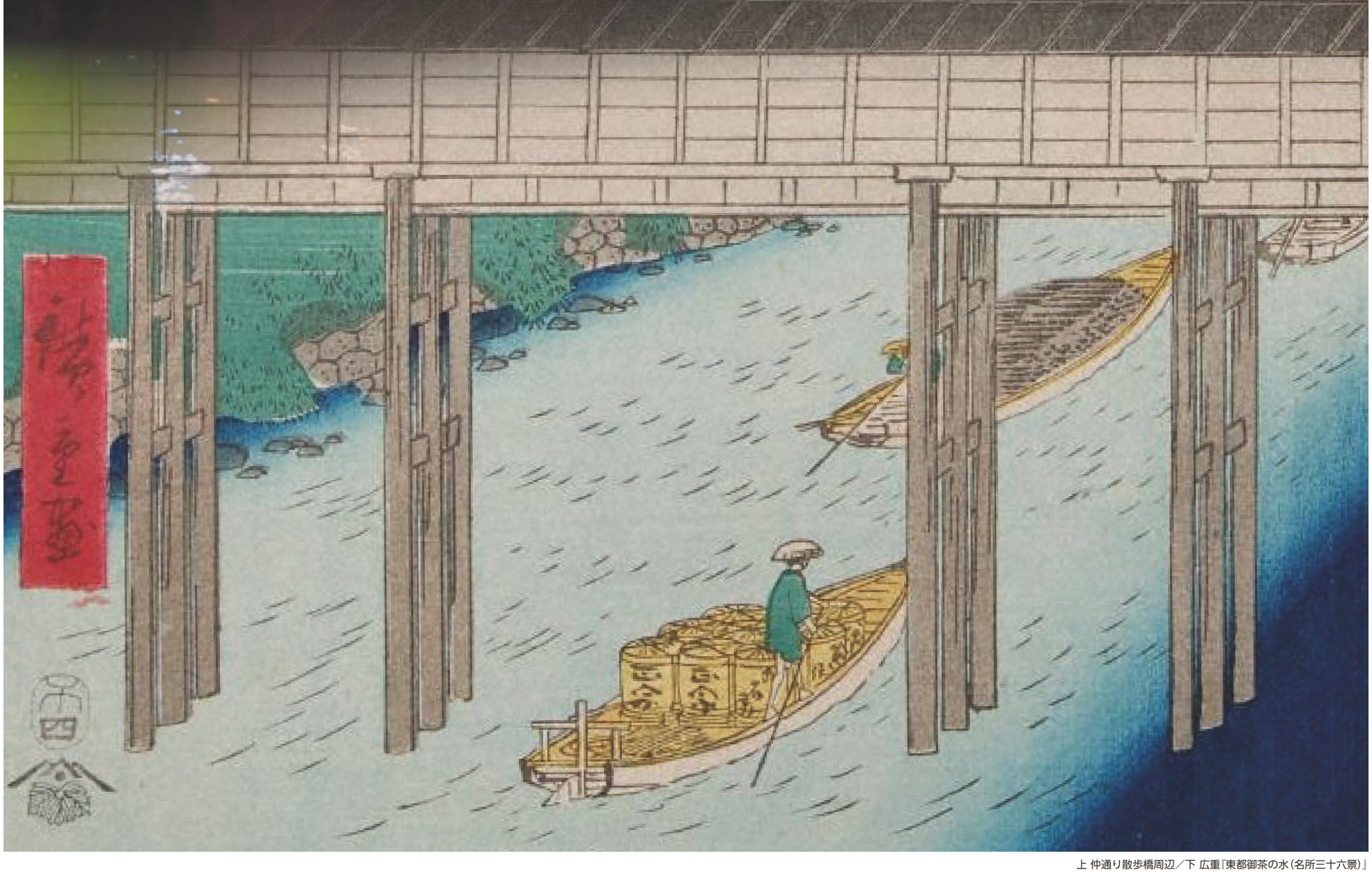
CHIYODA CITY NEWS
広報
千代田
Vol.1675
令和8年(2026年)
11月/5日

水辺と歩む、千代田区



上 仲通り散歩橋周辺／下 広重『東都御茶の水(名所三十六景)』

Contents　―今号の主な内容―

6　アフォーダブル住宅供給モデル事業　9　スマートごみ箱を設置します　15　行政手続きのご案内をAIがサポート!　16　12月4日～10日は人権週間です

発行=千代田区　編集=広報広聴課　〒102-8688九段南1-2-1☎03-3264-2111(代表) FAX03-3239-8604 区HP:https://www.city.chiyoda.lg.jp

水辺と歩む、千代田区

暮らしを支えた「水の都」江戸

千代田区内を歩いてみると、都心部にもかかわらず意外にも水辺が多いことに気付きます。
実は江戸時代、現在の千代田区を含む江戸のまちは水との関わりが深く、水を生かしながら都市が発展した「水の都」でした。
江戸城があった一帯でも、川や堀、上水が人々の暮らしやまちの発展を支えていました。
そんな江戸の水辺の歴史を巡ってみましょう。



※地図は1846年刊行。掲載する出来事とは年代が異なります

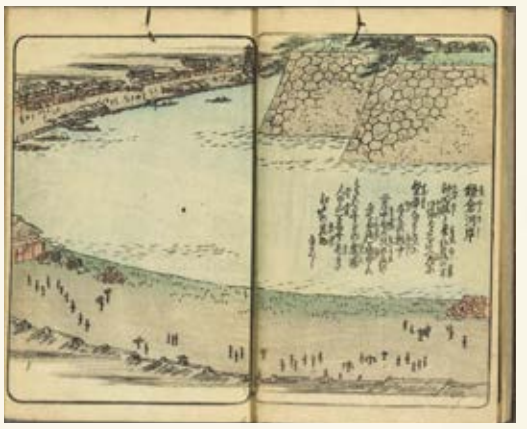
水とのかかわり 江戸時代

江戸時代、区内を流れる川は、人や物を運ぶ大切な交通路でした。現在のように鉄道や車道が整備されておらず、米や酒、木材などを大量に運ぶには船が効率的だったため、水路を利用した輸送が重要な役割を担っていました。

慶長9（1604）年ごろ～寛永13（1636）年まで、江戸城の外堀が段階的に整備されました。外堀は城を守る防衛施設であると同時に、都市の区画を分ける役割も持っていました。

壱 物流の拠点

現在の神田橋から鎌倉橋周辺には、「鎌倉河岸」と呼ばれる荷揚げ場があり、水上交通の拠点としてにぎわいました。この名は、江戸城の建設に使う石材や木材を鎌倉（現在の神奈川県鎌倉市付近）から運び込んで陸揚げしたことが由来と言われています。



▶鎌倉河岸の様子。左側には町並みと船着き場がみえる

一立斎広重 ほか『絵本江戸土産 10編』国立国会図書館デジタルコレクション

河岸（かし）　船から米や魚などの荷物を積み降ろしする川沿いの場所。

弐 江戸城建設の物資補給

天正18（1590）年に徳川家康が江戸城建設の物資を運ぶため、龍の口（和田倉門のそば）から銭瓶橋まで道三堀という、堀割をつくりました。そして、ほぼ中間点（現在の丸の内一丁目と大手町一丁目の境）には、「道三橋」という橋が架けられます。慶長年間（1596年～1615年）には堀に沿って材木屋などが立ち並び、その後大名が屋敷を構える武家地となりました。

堀割（ほりわり）　地面を人工的に掘って作った「水路」や、「お堀」。

千代田区の水路の変遷

天正18（1590）年
徳川家康の関東入国。道三堀がつくられる。

慶長8（1603）年
江戸幕府開府。日本橋は五街道の起点となり、日本橋川の周辺は人や物資が集まる江戸の中心地に。

慶長年間（1596年～1615年）
日比谷入江の埋め立て、水路の開削、川の流れの付け替えなどが行われ、都市の形がつくられた。

慶長9（1604）年ごろ
江戸城の外堀が段階的に整備されはじめる。

元和6（1620）年
神田台を掘り割り、川の流れを東へ。現在の神田川下流部につながる流れが形づくられた。



▶神田川の様子。手前の橋は昌平橋

広重『名所江戸百景 昌平橋聖堂神田川』,安政4 国立国会図書館デジタルコレクション

寛永年間（1624年～1644年）
神田上水が整備され、江戸城や神田・日本橋の町へ飲み水を送る仕組みが発達。

参 肆 「天下祭」もかつては…

参 神田祭

神田明神で行われる「神田祭」は、江戸時代初期には神輿を船に乗せて進む「船渡御」が行われていたと伝えられています。竹橋から船に乗り、小舟町（現在の中央区日本橋エリア）にあった神田屋庄右衛門の屋敷前付近で陸に揚げられた後、陸上を進んだそうです。

肆 山王祭

「山王祭」が行われる日枝神社も、かつては「船渡御」で、現在の和田倉門付近から八丁堀・茅場町（現在の中央区方面）へ神輿が船で渡っていたとされています。祭礼の場になっていたことからも、水辺は特別な場所だったことがうかがえます。

伍 暮らしを支える上水の始まり

神田上水は、慶長年間（1596年～1615年）に江戸で最も早く整備に着手した上水とされています。水道橋付近で懸樋により神田川の上を渡ってから地下水道となり、人々の暮らしを支えていました。



広重『東都御茶の水』,安政5 国立国会図書館デジタルコレクション

上水（じょうすい）　都市部に水を届けた水の通り道。区には「神田上水」や、「玉川上水」が流れていた。

懸樋（かけひ）　川や谷、道路などを越え水を運ぶために空中に架けた木や竹でできた水路の橋。

表紙の絵に架けられているのは懸樋！

陸 城を守るためのお堀

江戸城では、周辺の地形を巧みに利用しながら堀が築かれました。堀は城内をいくつもの区画に分け、城を守る役割を果たしていました。



広重『名所江戸百景 外桜田弁慶堀糀町』,安政3 国立国会図書館デジタルコレクション

漆 枯れない名水・柳の井

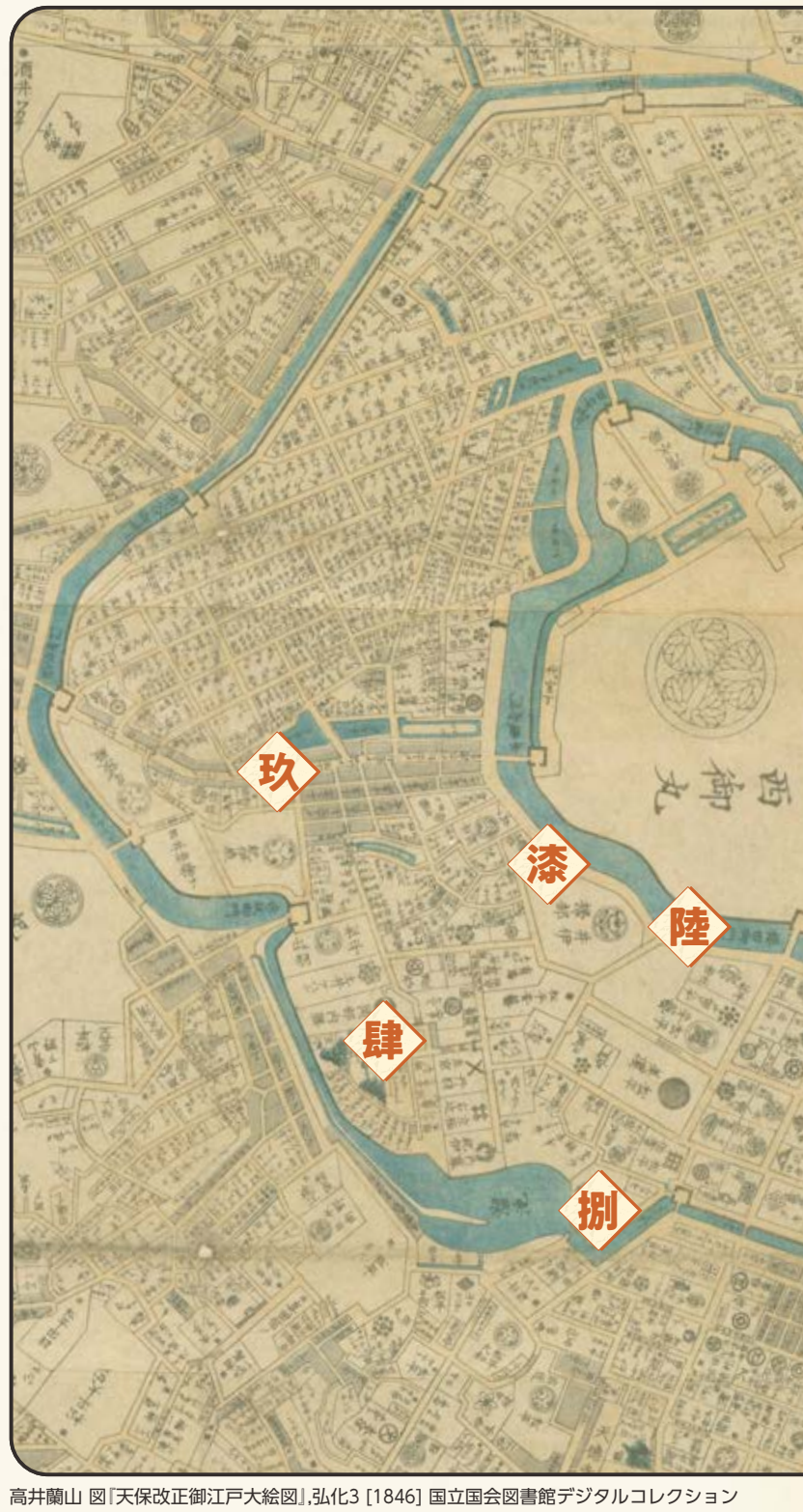
桜田濠の土手下には、かつて「柳の井」と呼ばれる井戸がありました。傍らにあった柳の木にちなむ名で、江戸時代には、干ばつの際にも枯れない名水として多くの通行人に利用されたと言われています。

捌 防備と都市機能を担う

江戸城の外堀には、城の防備や見張りなどを担う「隅櫓（すみやぐら）」と呼ばれるものが3つ設けられていました。その一つは「溜池櫓（ためいけやぐら）」といい、溜池の水を上水として江戸のまちへ送り出す起点でもありました。

玖 多摩川から運ばれた上水

江戸時代の千代田区には、玉川上水の地下水路が通っていました。羽村の多摩川から四谷大木戸まで運ばれた水は、その先では石樋や木樋による地下水路を通って江戸市中へ届けられました。



高井蘭山 図『天保改正御江戸大絵図』,弘化3 [1846] 国立国会図書館デジタルコレクション

承応3（1654）年　玉川上水が完成。四谷・麹町方面にも水が送られるようになる。

明暦元（1655）年　玉川上水の水が江戸城内にも引かれる。

明暦3（1657）年　明暦の大火。町づくりや防火対策が見直される。水路や上水は防災の面でも重要に。

享保7（1722）年　本所上水、青山上水、三田上水、千川上水の4つの上水が廃止。享保の改革に伴う財政的な理由という説も。残った神田上水と玉川上水は、江戸後期に都市の暮らしを支えた。

享保13（1728）年　城濠の魚釣禁止令発令。堀は城を守る場所として管理されていた。

寛政3（1791）年　江戸の上水についてまとめた『上水記』が完成。上水の仕組みや管理の記録がされており、江戸の水道が計画的に整えられていたことが分かる。



『上水記』巻2「玉川上水水元絵図並諸枠図」国立公文書館所蔵



▲右側は桜の井（井戸）。上水だけでなく井戸も親しまれた

広重『東都名所外桜田弁慶堀桜の井』国立国会図書館デジタルコレクション

もっと! 水辺と歩む、千代田区

魅力あふれる「水辺のまち」へ

人々の暮らしに欠かせなかった川ですが、上空に首都高速道路が走ったり、高い堤防が築かれたりするなど、都市の発展により人々の生活から切り離されていきました。しかし、近年、水辺の持つ自然環境や親水空間としての機能を見直し、まちづくりに活用したいという機運が高まってきています。
区では現在、水辺を歩き、憩い、人が集まる身近な空間として生かす取り組みが進んでいます。



昌平橋

神田川に架かる現在の昌平橋（左）。周辺には複数の鉄道橋が架かり、都市的な水辺の景観が広がる。

BATON PARK 2026

10月14日～21日の8日間、神田エリアと大手町エリアをつなぐ歩行者専用道路「大手町川端緑道」の未来の空間活用を見据えた社会実験として行われた。「賑わう」「くつろぐ」「つながる」という3つの過ごし方をテーマに空間が構成された。画像は「BATONPARK FLOAT」の様子。

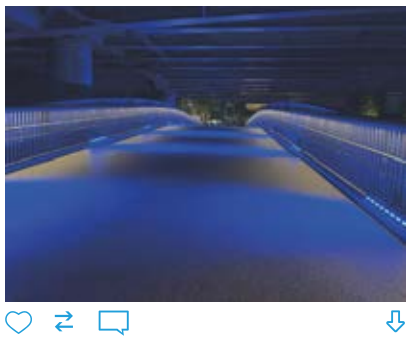
主催　（一社）大手町歩専道マネジメント

水とのかかわり 令和

都市部にある水辺は、ビルが建ち並ぶまちの中で、自然を身近に感じられる貴重な場所。水辺を歩き、眺め、憩うことで、ふだんとは違うまちの景色や、新たな魅力に気付くことができます。

水辺が、これからどのような場所になっていくのか、実際に訪れ、その変化や魅力を感じてみませんか。

1 橋梁ライトアップ



#水辺を楽しむ　#水の週間
#ライトアップ

水辺を誰もが快適に楽しめるにぎわいのある空間にするため、区が管理する橋梁を軸としたライトアップを行います。水の大切さの普及啓発活動として、また橋の開通PRや居心地の良い水辺のウォーカブル空間形成の推進に向けて行っています。

問 景観・都市計画課景観指導係
☎03-5211-3639

水の週間

「水の大切さ」を理解してもらうために、国が「水の日（8月1日）」から1週間を定めた。今年は都内各所で水を連想させる青色にライトアップする「ブルーライトアップ事業」を行った。

ウォーカブル

「walk（歩く）」と「able（できる）」を組み合わせた造語で、歩きやすく、歩きたくなるまちや空間。区は道路や水辺などを「まちのリビング」に変え、人と人とのリアルな交流を生む「ウォーカブルなまちづくり」に向けた取り組みを進めている。

2 水辺点検作業



#水辺を安全に
#目視で確認

河川にある護岸や橋などの施設の状態を定期的に点検し、安全に利用できるよう維持管理を行っています。劣化や損傷の早期発見に努め、災害に強いまちづくりと区民の安全・安心の確保につなげています。

問 道路公園課維持係
☎03-5211-4243

明治元（1868）年
「江戸」から「東京」へ。水路や上水の管理も、江戸幕府から行政へと移る。

明治３（1870）年
玉川上水で船の通行が認められ、水路は物資を運ぶ交通路としても利用される。

明治31（1898）年
東京で近代水道が使われ始める。江戸時代から続く上水の役割は近代水道へ。浄水場で水をきれいにし、鉄の水道管で町へ送る仕組みを整備。

▼かつての神田川。右側には当時の万世橋が



万世橋付近の図（『新撰東京名所図会　神田区の部下巻の一』所収）明治33年（1900）　千代田区所蔵

明治36（1903）年
日本橋川の上流が再び神田川とつながり、都市の交通や船による輸送に役立つ水路として整備。

大正12（1923）年
関東大震災。水道施設や橋、川沿いの地域も被害甚大。その後、道路や橋、水辺のまちづくりを推進。

昭和24（1949）年ごろ
外堀川の一部が埋め立てられ、道路や市街地へ姿を変える。

昭和29（1954）年～昭和31（1956）年
外堀川の一部でさらに埋め立てが進み、東京高速道路や周辺の市街地整備につながる。

昭和34（1959）年ごろ
外堀川の多くは水面が見えなくなり、江戸時代から続いた水路の一部は道路や建物、都市施設となる。

3 仲通り散歩橋



#交流のための水辺
#人と人、まちとまちを結ぶ

7月に歩行者専用の人道橋「仲通り散歩橋」が完成。神田エリアと大手町エリアをつないでにぎわいを形成します。10月には大手町エリアで行われたイベント「BATON PARK 2026」でエリア間の回遊や交流を生み出しました。

問 地域まちづくり課まちづくり担当
☎03-5211-3619

4 鎌倉河岸船着場



#水辺で防災　#にぎわいにも活用

7月に防災船着場「鎌倉河岸船着場」が完成。バリアフリーに配慮し、スロープでアクセス可。災害時の人員・物資の輸送ルートを補完する拠点を確保し、防災対応力を向上させます。また、舟運への活用で水辺のにぎわいを創出します。

問 地域まちづくり課まちづくり担当
☎03-5211-3619

5 水生生物調査体験



#水辺について知る
#意外と大漁

外堀に親しんでもらうため、毎年イベントを開催。令和8年度は小学生以上の方を対象に「水生生物調査体験会」を行いました。外堀の魚などの水生生物の調査・観察をしながら、水質と生き物のつながりを楽しく学んでもらいました。

問 環境政策課公害指導係
☎03-5211-4254

6 外堀の水質改善対策



#水辺を過ごしやすく　#アオコ

外堀では、夏にアオコが発生し、臭いなどが問題です。区は東京都と連携して天然鉱物を加工した水質改善処理剤を使用して水質改善に取り組んでいます。

問 環境政策課公害指導係
☎03-5211-4254

アオコ
水中の植物プランクトンが大量に増え、水面が緑色になる現象。外堀では水が滞留しやすいことなどから、夏場にアオコが大量に発生し、景観の悪化や臭い発生の一因となっている。

7 飯田橋、いい場だし。

イベント開催



#水辺でくつろぐ
#社会実験　#駅近　#親水空間

神田川沿いに憩いのスペースを設け、道路空間を活用したプログラム。飯田橋駅東口周辺の将来の広場づくりに向けた社会実験イベントを行います。都心の駅前でゆったりと過ごせる空間を体験してください。

時 11月20日(金)・21日(土)9時～20時
場 飯田橋駅東口(第2自転車駐車場周辺および区道287号飯田橋3-11周辺)

問 地域まちづくり課まちづくり推進係
☎03-5211-3617

＼公募によって名前が決まりました！／

仲通り散歩橋
日比谷仲通りから丸の内仲通り・大手町仲通りへと続く南北の通りがこの橋によって神田側につながり、にぎわいが連続していくことに期待を込めて。

鎌倉河岸船着場
江戸の頃から物流の拠点として栄えていた鎌倉河岸の歴史背景をふまえて。
＃2面・3面をチェック



お茶の水橋

令和7年12月1日～令和8年1月31日に行われたライトアップ(試験点灯)の様子。

千鳥ヶ淵

区を代表する水辺。緑道では桜や木々の自然を感じながら散策を楽しめる。

柳の井

かつて親しまれた「柳の井」の跡地。現在もお堀の近くに見られ、傍らには柳の木が立っている。

昭和40(1965)年
日本橋川などは都市河川として管理されるように。

昭和45(1970)年
国道20号線(麹町大通り)の共同溝拡幅工事の際に、麹町三丁目で玉川上水施設の一部が発見される。



玉川上水の石枡(千代田区指定有形文化財／2018(平成30)年4月1日指定)



石枡とともに出土した木樋(もくひ)(千代田区指定文化財)。日比谷図書文化館で常設展示されている

平成4(1992)年
外堀で歴史的な水辺を守りながら、都市環境を改善する取り組みが行われる。

平成15(2003)年
江戸時代の上水道の仕組みを今に伝える貴重な文化財として、玉川上水が国の史跡に指定。

平成30(2018)年～
東京都が外堀の水辺環境整備を推進。歴史ある水辺を都市の財産として活用する取り組みが続いている。